校長から宗高・宗中のみなさんへⅡ ㉒

令和２年１１月１３日（金）

「みんな違うのが当たり前」

昨日から２学期期末考査前１週間になりました。高校３年生にとっては、高校生活最後の定期考査ということになります。高校３年生は、これから色々なことに「高校生活最後の・・・」という枕詞が付く季節になってきました。この２学期期末考査に向けての勉強は、高校３年生にとってはそのまま「受験勉強」でもあります。そういう意識を持って「高校生活最後の」定期考査に悔いを残さない、宗高３年間（宗中からの６年間）の集大成となる取組をしてください。

中学１年生から高校２年生のみなさんは、改めて言うまでもなく、**今日の放課後から明日、明後日の土日３日間の取組が期末考査の結果を大きく左右します！** 今年最後の定期考査である、この期末考査で納得のいく取組をして、その取組にふさわしい結果を出せば、今年１年間の素晴らしい締め括りができますよね。そして、そのことが新しい学年に向けての大きな自信と更なるやる気につながることは間違いありません！

今日から日曜日までの３日間は**「今年こんなに勉強したのは初めて！」というくらい勉強に頑張ってもらいたい**と思います。必ず結果はついてきます！

みなさんの頑張りを信じ、大いに期待しています。

アメリカ大統領選挙の結果は依然として確定はしていませんが、民主党のジョー・バイデン氏の当選がほぼ確実になったと言われています。その結果、バイデン氏が副大統領候補に指名したカマラ・ハリス氏が、アメリカ史上初の女性副大統領となることもほぼ確実となりました。ハリス氏は父がジャマイカ系、母がインド系です。アメリカ合衆国において、こうした多様なルーツを持つ副大統領が就任することは初めてのことになります。

アメリカ合衆国は、移民の国でもあり、多種多様な人種や民族、アメリカ先住民等によって構成されています。最近、警察官によるアフリカ系アメリカ人の射殺事件が相次ぎ、人種差別をめぐるデモや暴動の報道もあっています。そんな、人種間や富める者と富まざる者との「分断」が言われ

るアメリカ合衆国において、ハリス氏のような多様なルーツを持つ次期副大統領が就任することは、非常に意義深いことであると感じます。

日本のある政治家がかつて、「日本は単一民族国家だ。」というような発言をして問題になったことがありましたが、国立アイヌ民族博物館やウポポイ（民族共生象徴空間）の存在からも明らかなように、日本も決して「単一民族国家」ではありません。日本にも異なるルーツを持つ人々や多くの外国人が存在しています。しかし、この政治家のように誤った認識を持っている人も少なからずいるのかもしれません。

私たちは、同じ学校に通い、同じ制服を着て、同じように生活していても、ひとり一人顔や体格が違うように、性格や考え方、嗜好、家庭環境、家庭の経済状況や家族構成、ルーツや出身地等々、その内面は、ひとり一人みんな違います！ ひとり一人が、みんな違っていることは当たり前のことなのです。しかし、私たちは、「ひとり一人はみんな違う」というこのごく当たり前のことを忘れ、人とちょっと違うことを論（あげつら）ったり、排除や否定したり、あろうことかいじめや差別の「口実」にすらしてはいないでしょうか。

「違い」があるからこそ、多様性に富むからこそ、その組織や集団は強く、魅力あるものになるのだということを忘れるわけにはいきません。自分とは「違う」ものを「排除」や「否定」するのではなく、自分とは「違う」相手と「対話」することを通して、お互いに理解することに努め、お互いを認め、「共生」していく、そんな社会にみなさんは生きていかなければなりません。

目に見える部分が同じであっても、その内面はひとり一人みんな「違う」という認識をしっかりと持つところから始めようではありませんか。宗高・宗中はそんな学園になるのです！

多様なルーツを持つ次期副大統領ハリス氏が、次期大統領バイデン氏とともに 11 月 7 日（現地時間）行った勝利の演説は、民主主義や「分断」の回復について、深い内容のものでした。最後にその演説の一部を紹介したいと思います。

「私は最初の女性副大統領かも知れないが、最後ではない。なぜならば、これを見ている全ての少女たちが、アメリカは可能性に満ちた国だと思うからです。

（公民権運動を率いた）ジョン・ルイス下院議員は亡くなる前に、『民主主義は状態ではない』と書いています。それは行為であり、彼が言いたかったのは、アメリカの民主主義は保障されていないということです。**民主主義のために闘う私たちの意志を強くしないと、民主主義も強くならないのです。民主主義を守り、決して民主主義があることを当たり前と思わず、保護すること。私たちの民主主義には闘争が必要です。犠牲を伴います。しかし、そこには喜びがあり、進歩があります。なぜなら、私たち国民には、より良い未来を築く力があるからです。**

母シャンバラ・ゴパラン・ハリスは、いつも私たちの心の中にいました。彼女が 19 歳でインドからアメリカに来たとき、この瞬間を想像していなかったかもしれません。しかし、アメリカとはこのようなことが可能な国であると、彼女は深く信じていました。**だから私は、母のことや、これまでの黒人、アジア系、白人、ラテン系、アメリカ先住民の女性たち、今夜のこの瞬間のために道を切り開いてくれた人々のことを今、思っています。全ての人々の平等と自由と正義のために多くのことを犠牲にして闘った女性たちです。その中には、あまりにも見落とされがちになってきた黒人女性たちのことも含まれています。彼女たちが私たちの民主主義のバックボーンであることを証明してくれました。**

アメリカ国民のみなさん、誰に投票したかに関わりません。私はジョーがオバマ大統領にしたように、忠実で正直で、準備ができていて、あなたとあなたの家族のことを考えて毎朝起きるよう、懸命に努力します。なぜなら今が、本当の仕事が始まる時だからです。生命を守り感染対策を行うこと、勤労者のための経済の再建、この社会と司法制度の制度的人種差別を根絶すること、気候危機に立ち向かうこと、 団結と国の魂を癒すこと。

簡単な道のりではではないでしょう。しかし、アメリカは準備ができています。ジョーと私もです。」

校 長　　深 瀬　信 也